

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 3	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Smoking, alcohol drinking and esophageal cancer: findings from the JACC Study. 喫煙、飲酒と食道癌：JACC 研究からの発見	
執筆者	
Sakata K, Hoshiyama Y, Morioka S, Hashimoto T, Takeshita T, Tamakoshi A; JACC Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Epidemiol. 2005 Jun;15	
キーワード	
喫煙、飲酒、食道腫瘍、コホート研究	
要 旨	
<p>世界保健機構 (WHO) の 2000 年の統計によると食道腫瘍は男性では舌癌、胃癌、肝癌、結腸癌に続いて 5 番目、女性では乳癌、肺癌、胃癌、結腸癌、子宮癌、卵巣癌に続いて 7 番目の死亡率である。国立がんセンターによると 1992 年から 1996 年の間、食道腫瘍の 5 年間生存率は男性で 40% であり、胃癌や結腸癌では 5 年間生存率が 72% であることを考えると食道腫瘍の予後があまり良くないことがわかる。喫煙と飲酒が食道腫瘍の危険因子であることが指摘されており、本研究では食道腫瘍による死亡率への喫煙と飲酒の複合的な影響をコホート研究で調べた。1988 年から 1990 年にわたり、日本の 45 地区に住む約 11 万人 (40-80 歳の男性 46,465 名、女性 64,327 名) を対象とした大規模なコホート研究が行われ (Japan Collaborative Cohort Study)、自記式問診票を用いて生活習慣の把握をしている。女性の喫煙者、飲酒者は少数であるため、今回の研究では女性については解析を行わなかった。また、悪性腫瘍の病歴がある 308 名、喫煙及び飲酒状況が不明な 3579 名についても除外し、結果、42,578 名分のデータを用いて解析を行った。1990 年の時点で 40-79 歳であった 110,792 名について追跡調査を 1999 年に行なった。この結果、1 日当りの喫煙量が 20 本以下かつ飲酒量が 1-2,9 ユニット (1 ユニットでアルコール換算 22g) で相乗的に食道腫瘍による死亡率が上昇し、非喫煙・飲酒者と比較して、ハザード比は 3.88 となった。また喫煙量が 1 日当り最低 21 本かつ飲酒量が 3 ユニットの場面にも食道腫瘍による死亡率リスクが上昇し、ハザード比は 6.3 となった。非喫煙者で飲酒量が増加した場合、非飲酒者や 1 日当りの飲酒量が 1 ユニット以下の人で喫煙量が増加した場合では食道腫瘍による死亡率リスクの上昇は見られなかった。以上より、喫煙と飲酒の両方によって食道腫瘍による死亡率リスクは上昇するが、喫煙か飲酒のどちらか一方では食道腫瘍による死亡率リスクの上昇は見られないことが明らかになった。</p>	